

简牍文书学丛书 李均明 主编

简牍文书学

李均明 刘军 著

广西教育出版社

简牍文书学丛书 李均明 主编

简牍文书学

李均明 刘 军 著

K271.5

1999. 10. 24
风入松书店
No. 0027933

简牍文书学丛书

简牍文书学

李均明 刘 军 著

☆

广西教育出版社出版

南宁市鲤湾路8号

邮政编码:530022 电话:5850219

本社网址 <http://www.gep.com.cn>

读者电子信箱 master@gep.com.cn

全国新华书店经销 广西民族印刷厂印刷

*

开本 850×1168 1/32 14.375印张 插页5 356千字

1999年6月第1版 1999年6月第1次印刷

印数:1—1 000册

ISBN 7-5435-2808-8/K·86 定价:50.00元

如发现印装质量问题,影响阅读,请与工厂联系调换

《简牍文书学》简介

简牍文书是中国古代纸张尚未发明及普遍使用前写在竹木材料上的公、私文书,受载体材料及历史时空的制约,有着与今日文书不尽相同的形式与用语。《简牍文书学》凡十四章七十节,较系统全面地阐述简牍文书的一般规律,是进行简牍乃至相应时代历史研究的基础。本书对简牍文书的质材、文字、符号、版面及文体、稿本、分类作了较详尽的考述,又着重对书檄、簿籍、律令、案录、符券、检牒等六大类文书中的具体文种举例说明,揭示文书行政的内在联系。对简牍文书进行如此全面的探索,在我国尚属首次。

序

从本世纪初开始,在西北的新疆、甘肃等地,陆续出土了不少的汉简,但到全国解放时,这些简的实物都不在大陆。50年代以后,情况发生了变化,从1951年到现在,湖南、湖北、甘肃、内蒙、山东、河北、安徽、江苏等地出土了战国、秦、汉、三国的简牍。由于有了数量很多、内容丰富的实物材料,为我国简牍学的发展提供了重要的条件。特别是近二十年来,各地培养出不少的专门人材,还出现了有关简牍的刊物。总之,到目前为止,无论是在对简牍的保护或整理研究方面,都取得了令人瞩目的进展和成就。

内地的简牍多出土于坟墓,其内容以典籍为多,而西北的多出于障燧遗址,故以官府文书为主。从王国维到劳干,都十分注意简牍中所见的汉晋官文书。如劳干据居延汉简而对西汉诏书行下的格式作了探讨。他举《史记·三王世家》中元狩六年诏书为例,认为文中的“丞相下中二千石,中二千石下郡太守”,第二个“下”字应是衍文。按汉制丞相有权颁下诏书,下书对象为中二千石、二千石、郡太守、诸侯相。中二千石不可能再下郡太守。劳氏以为“此虽一字之微,然关于汉代政阶机构者甚巨”。这表明钻研汉代官文书,对于正确理解汉代典章制度确会大有好处。

近几十年来,海外有的学者也都认识到通过汉简官文书来弄清汉制的重要性,在国内也有学者在这方面作出过努力,如陈直先生在1962年写成的《居延汉简研究》一书,其中的《综论》部分包括38个小的专题,里面就涉及到汉代的诏书、簿检、名籍、符传、券约等的论述和考证。1962年到1966年,陈梦家先生发表了多篇研究汉史的文章,对汉代边塞防御

以及烽燧制度、官吏俸例等问题作了疏证和考证的工作,他所依据的材料,主要来自简牍中的官文书,所以他认为“掌握较整齐的档案卷宗”,才能“更好地用以研究历史”。两位前辈对汉简中官文书所作的研究工作,自然对后人会有很大的启迪作用。

现在大家能看到很多新出土的材料,这比前人幸运得多。像李均明、刘军两位同志的《简牍文书学》一书,正是在这样有利的条件下完成的。均明同志长期以来一直从事于汉简的整理和研究工作。早在十几年前,他和谢桂华同志合作,对居延汉简简文仔细地校对一遍,这是有功于学林的一项工作。近年来均明同志又参加了江陵张家山、连云港尹湾等地出土简牍的整理工作,最近参加了长沙走马楼出土的吴简的释文工作。能广泛地接触到许多的出土材料,这对均明同志进行研究极为有利。近十几年来,他在秦汉政治、军事等各个方面作过不少的深入研究,发表的论文受到学界的赞许。

随着简牍学的发展,均明同志为了便于大家能作更深入的研究,把自己多年在汉代官文书方面的研究心得撰写成书。他在书中把汉代文书分得很细,如书一类分为诏书、命书、奏谏书等二十类。簿则分成三十类,籍分成三十九类。另外,对通行文种之体式也有详细的介绍,如文书的标题、日期以及上行或下行等都有所阐明,甚至还对简牍上常见的多种符号也一一解释,这对于读者很有用处。此书不仅有助于简牍学的提示,同时也对普及有所裨益。

过去劳干曾认为当年王国维仅根据千余支简的资料进行研究,而他则可以见到上万的汉简,并以此而感到自豪。今日我们所见,又几倍于“万简”。正是在这种有利条件的推动下,简牍学研究获得了发展,而此书的写成,也标志着近年简牍学中的一大新的成果。同时它又必定会对简牍研究取得新的进展起到一定的推动作用。

吴荣曾

1998年8月16日于北京大学

凡 例

一、本书引述之简例，原件皆竖写，今改横排。

二、原简上的各种符号，如：■、▣、●、○、▲、=、∠、人、P、2——等，照录并稍加规范。

三、著者在简牍释文中所加符号及含义：

字迹模糊，未能确认的字，以□表示，一字一□。

字迹模糊而未能确定字数及省略简文，以……表示。

原简断折残缺处用▣表示。

封泥印匣槽用回表示。

[]内为补字。

()内为说明文字。

四、引书简称：

甘肃省文物考古研究所：《敦煌汉简》，中华书局 1991 年 6 月版，简称《敦》。

林梅村、李均明：《疏勒河流域出土汉简》，文物出版社 1984 年 3 月版，简称《疏》。

中国社会科学院考古研究所：《居延汉简甲乙编》，中华书局 1980 年 7 月版，简称《甲乙编》。

谢桂华、李均明、朱国炤：《居延汉简释文合校》，文物出版社 1987 年 1 月版，简称《合校》。

甘肃省文物考古研究所、甘肃省博物馆、文化部古文献研究室、中国社会科学院历史研究所：《居延新简——甲渠候官》，中华书局 1994 年 12 月版，简称《新简》。

李均明、何双全：《散见简牍合辑》，文物出版社 1990 年 7 月版，简称《散》。

睡虎地秦墓竹简整理小组:《睡虎地秦墓竹简》,文物出版社,1990年9月版,简称《秦简》。

连云港市博物馆、东海县博物馆、中国社会科学院简帛研究中心、中国文物研究所:《尹湾汉墓简牍》,中华书局1997年9月版,简称《尹湾》。

林梅村:《楼兰尼雅出土文书》,文物出版社1985年2月版,简称《楼兰》。

湖北省文物考古研究所、北京大学中文系:《望山楚简》,中华书局1995年6月版,简称《望山》。

湖北省荆沙铁路考古队:《包山楚简》,文物出版社1991年10月版,简称《包山》。

郭若愚:《战国楚简文字编》,上海书画出版社1994年2月版,书中引《长沙仰天湖战国竹简》,本书简称《仰天湖》。

中国科学院考古研究所、甘肃省博物馆:《武威汉简》,文物出版社1964年9月版,称《武威汉简》。

作者简介

李均明，1947年生于印度尼西亚邦加岛，祖籍广东博罗。60年代归国就读于广西宁明中学，70年代毕业于北京大学中文系古典文献专业，此后长期从事古代简牍的整理与研究工作，曾参加临沂银雀山汉墓竹简、云梦睡虎地秦简、大通上孙家寨汉简、江陵张家山汉简、居延新简、连云港尹湾汉墓简牍、长沙走马楼简牍的整理及相关八种书籍的撰写。

主要著作有《孙臆兵法译注》、《汉代屯戍遗简法律志》（合著）等。已发表简牍学论文70余篇。现任中国文物研究所研究员。

刘军，1954年生于北京，祖籍辽宁大连。80年代毕业于北京师范学院历史系，曾参加居延新简、连云港尹湾汉墓简牍的整理及相关书籍的撰写。著作有《汉代屯戍遗简法律志》（合著）等。已发表《甲渠塞临水部候长考——兼论候长职责》、《汉简“课”考述》、《甲渠候官掾夏侯谭》等十余篇论文。现任中国文物研究所助理研究员。

目 录

第一章 简牍质材与加工书写	(1)
第一节 简牍质料	(1)
第二节 简牍素材	(6)
第三节 简牍加工编联及其工具	(11)
第四节 简牍书写用具	(20)
(一) 笔	(20)
(二) 墨	(22)
(三) 砚与研石	(24)
第二章 简牍文字	(28)
第一节 战国文字	(28)
第二节 篆书	(31)
第三节 隶书	(33)
第四节 草书	(36)
第五节 楷书	(38)
第六节 行书	(39)
第七节 简化	(40)
(一) 省笔划	(40)
(二) 省部件	(40)
(三) 以点、划代替复杂部件	(41)
(四) 草书再简化	(41)
第八节 繁化	(43)

第九节	异体	(43)
第十节	同形、形近字	(44)
第十一节	假借字	(47)
第十二节	合文	(49)
第十三节	错漏字	(49)
第十四节	字词的时代特征	(51)

第三章 简牍符号 (60)

第一节	句读符	(61)
第二节	重叠符	(64)
第三节	界隔符	(69)
(一)	界隔文书责任人与起草人	(70)
(二)	界隔事件当事人与见证人	(71)
(三)	界隔事项	(71)
(四)	界隔书信起首语与正文	(72)
第四节	题示符	(73)
(一)	提示标题、主题	(73)
(二)	提示章节段落或条款起首	(74)
(三)	提示小结与合计	(76)
(四)	提示特殊事项	(78)
第五节	钩校符	(78)
(一)	关于实物、人物见存之钩校	(79)
(二)	关于行为是否已施行之钩校	(84)

第四章 简牍版面 (89)

第一节	长度	(89)
第二节	容字	(96)
第三节	天地	(99)
第四节	留空	(101)

第五节 分栏与栏界	(106)
第六节 书写面	(112)
第七节 抬头与提行	(115)
第八节 编码	(119)
(一)逐简编码	(120)
(二)逐事、逐项编码	(123)
(三)篇章码	(124)
第九节 标题与目录	(124)
(一)标题居同一简牍首端	(125)
(二)标题居册书首简及末简	(127)
(三)揭书标题	(130)
(四)目录	(132)
第十节 大小字、多次书写与补字	(134)
(一)大小字	(134)
(二)多次书写	(136)
(三)补字	(139)
第十一节 画除	(141)
第五章 通行文种之体式	(143)
第一节 标题	(143)
第二节 日期	(144)
(一)以事叙年、后系月日	(144)
(二)书年序、月序、朔干支、日干支	(145)
(三)书年号、年序、月序、朔干支、日干支	(145)
(四)未署日期	(147)
(五)署日期于文末	(148)
第三节 发文者	(148)
(一)首长发文	(149)
(二)首长与副手共同发文	(149)

(三)代行、兼行首长职权者发文	(150)
(四)史官发文	(150)
(五)以机构名誉发文	(151)
第四节 收文者	(151)
(一)不署收文者	(151)
(二)署收文机构	(152)
(三)署收文者职官或具体人	(153)
第五节 正文	(154)
(一)上行始发文	(154)
(二)上行请转文	(156)
(三)上行回报文	(156)
(四)下行始发文	(157)
(五)下行转发文	(158)
第六节 附件	(159)
第七节 起草人	(160)

第六章 简牍文书的稿本	(164)
第一节 草稿	(164)
第二节 定稿	(167)
第三节 手稿	(168)
第四节 正本	(168)
第五节 抄本	(169)
(一)别书	(169)
(二)写移书	(170)
(三)录	(171)

第七章 简牍文书的分类与命名	(172)
第一节 按自身性质划分大类	(172)
第二节 多角度划分文种	(173)

(一)按发文者划分	(173)
(二)按事类划分	(174)
(三)按物质类别与人员状况划分	(176)
(四)按行文方向划分	(177)
(五)按传递方向划分	(177)
(六)按外形划分	(178)
(七)按稿本形态划分	(178)
(八)按期限划分	(179)
第三节 关于具体文件的命名方式	(179)
(一)书檄类文件无标题,称谓见正文中	(180)
(二)簿籍、案录类文件设标题	(181)
(三)符券类文件多设文号	(183)
第八章 称谓录	(185)
第九章 书檄类	(210)
第一节 书	(210)
(一)命书	(210)
(二)诏书	(211)
(三)请诏书	(217)
(四)扁书	(222)
(五)官府下行书	(224)
(六)官府上行书	(228)
(七)报书	(230)
(八)语书	(232)
(九)举书	(234)
(一〇)视事书	(235)
(一一)病书	(235)
(一二)除书	(236)

(一三)予宁书	(238)
(一四)直符书	(240)
(一五)调书	(241)
(一六)偿债担保书	(242)
(一七)债书	(243)
(一八)变事书	(244)
(一九)爰书	(245)
(二〇)奏讞书	(252)
第二节 檄	(260)
(一)警檄	(260)
(二)行罚檄	(261)
(三)府檄	(263)
第三节 记	(265)
(一)府记	(265)
(二)官记	(266)
(三)私记	(268)
第四节 传	(272)
(一)公务用传	(272)
(二)私事用传	(273)
第五节 致	(276)
第十章 簿籍类	(278)
第一节 簿	(278)
(一)集簿	(279)
(二)月言簿、四时簿	(297)
(三)校簿	(301)
(四)守御器簿	(304)
(五)兵、守御器负算簿	(306)
(六)隧别被兵簿	(307)

(七) 鄣吏被兵簿	(308)
(八) 部别被兵簿	(309)
(九) 兵完折伤簿	(309)
(一〇) 官种簿	(309)
(一一) 茭积簿	(310)
(一二) 谷簿	(310)
(一三) 俸禄簿	(311)
(一四) 亭间道里簿	(311)
(一五) 传置道里簿	(311)
(一六) 吏货直簿	(312)
(一七) 钱出入簿	(313)
(一八) 谷出入簿	(317)
(一九) 粟出入簿	(318)
(二〇) 麦出入簿	(319)
(二一) 摩出入簿	(320)
(二二) 茭出入簿	(322)
(二三) 盐出入簿	(322)
(二四) 什器出入簿	(323)
(二五) 入狗簿	(323)
(二六) 入鸡簿	(324)
(二七) 出布簿	(324)
(二八) 日作簿	(325)
(二九) 日迹簿	(328)
(三〇) 计簿	(330)
第二节 籍	(335)
(一) 吏名籍	(335)
(二) 卒名籍	(336)
(三) 骑士名籍	(336)
(四) 廩名籍	(337)

(五) 隧别廉名籍	(338)
(六) 卒廉名籍	(339)
(七) 吏廉名籍	(340)
(八) 卒家属廉名籍	(341)
(九) 从者、私属廉名籍	(343)
(一〇) 吏奉赋名籍	(344)
(一一) 吏未得俸及赋钱名籍	(346)
(一二) 债名籍	(347)
(一三) 负债名籍	(348)
(一四) 黄卖名籍	(348)
(一五) 还食名籍	(349)
(一六) 衣物名籍	(350)
(一七) 被兵名籍	(352)
(一八) 折伤兵名籍	(353)
(一九) 车父名籍	(353)
(二〇) 佣名籍	(354)
(二一) 病名籍	(355)
(二二) 休名籍	(356)
(二三) 吏换署名籍	(356)
(二四) 吏除代名籍	(357)
(二五) 吏射名籍	(358)
(二六) 赐劳名籍	(358)
(二七) 功劳墨将名籍	(359)
(二八) 以令赐爵名籍	(360)
(二九) 适名籍	(361)
(三〇) 坐罪名籍	(362)
(三一) 不在署名籍	(363)
(三二) 田租名籍	(364)
(三三) 出入名籍	(364)